

平成20年度

# 研究だより

南部小学校

H20. 7. 28

No. 2

<兼 子>

第2回授業研究会（6月23日）ご苦労様でした。

2年1組・算数科・「テープ図をかいて、問題をとこう！」

土田真紀先生の授業から学ぶ

## <成 果>

### 【仮説1について】

- ・問題場面をしっかりと把握させるために、問題文を全員で3回読み、増えたミニトマトの数を求める問題であることをおさえていた。学習訓練と共に、テンポよく進めていた。
- ・主問題1を学級全体で学んでから、主問題2を自力解決させていく方法により、低学年にとって考え方ややり方を共有し、安心して新しい問題へ取り組めたのではないだろうか。
- ・主問題1で、けさはミニトマトが25個であるということを捉えた上で、立式でたし算にすると全部の数25個をこえてしまい、問題文にそぐわないことから、答えの見通しにもつながっていくのではないだろうか。

### 【仮説2について】

- ・ペア学習の際、できている子から先に言わせ、まだ終わっていなかったり分からなかったりした時は友達の発表を聞いてまねして付け足すことにより、みんなが発表できるという雰囲気につながっていったのではないだろうか。
- ・まとめの際、増えた数を求めるには、全部の数から始めの数を引けばよいことを、なるべく子どもから出た言葉でまとめようとしていた。

## <課 題>

- ・テープ図は、どこまで教えてどこから自力解決させていくか、事前に考えておく必要がある。
- ・問題を主問題2つに分けて考えさせたが、安心して取り組める反面、じっくりと自力解決に取り組む場面もほしかった。
- ・低学年の問題を把握させるには、動作化して問題を捉えさせることも有効だったのではないだろうか。

- ・早く終わった子への手立てや友だちへの教え方などペア学習としての取り組みの方法を今後考えていく必要がある。

6年B組・算数科「自分の考えや疑問を素直に表すことができる子ども」を目指して

工藤史子先生の授業から学ぶ

## <成 果>

### 【仮説1について】

- ・分数の大きさ比べのゲームとして、さいころを2つふって出た目で分数を作っていた。自分自身の問題として身近に感じながら課題に取り組むことができたのではないだろうか。
- ・異分母の分数の大きさ比べということで、前時の等しい分数を作って同分母に直すと比べることができそうだとすることに気づかせて、何とか解けそうだという意欲を持たせることができたのではないだろうか。

### 【仮説2について】

- ・6年全体を3学級に分け、少人数学級として学習したことにより、一人ひとりを見る時間への対応ができたのではないだろうか。
- ・自力解決の後ペアになり確認し、もし分からない時には一緒に考えることにより、自分の考えを深めたり友達の考えに触れて理解できたりすることができたのではないだろうか。

## <課 題>

- ・前時までの学習したことで「できた」「できた」から「できない」部分をできた部分との比較から今までとちがうところが何かを探して課題としていけばよいのではないだろうか。前時の学習の掲示が、みんなから見えるところにあるとよい。
- ・数字としてだけでなく絵や図にかくなどして、目に見える量として比べていくことによって下位の子どもも分かりやすく捉えることができるようになるのではないだろうか。
- ・分数の大きさを比べる場合、最終的に答えに書くのは計算後の答えではなく最初に提示された問題を書く必要があることを確認すべきである。
- ・最初にゲームで取り上げた自分の問題に対する答えを、最終的には求めて理解できたことを確認する必要がある。

